

病害虫防除

近年は4月以降、気温が高い状態が続く、発生する病気や害虫が変わっています。

菌核病の発生が減り、うどんこ病のような、やや高温下で発生する病気が増えています。害虫も同様に、早期から発生がみられます。

育苗期はもとより、定植直後においても、早め早めの防除に努めましょう。

褐色腐敗病・炭そ病対策

① 薬剤防除

褐色腐敗病・炭そ病は、高温・



写真① 褐色腐敗病 (果実の被害)

多湿の条件下で多く発生します。昨年は7月に曇雨天が続く、薬剤防除のタイミングが難しい年でした。発病後の防除では遅く、葉が繁茂してからは薬剤がかかりにくいいため、シブナムWDGやレーバスフロアブルなど、予防剤を中心とした防除が重要です。

褐色腐敗病は、感染すると24時間以内に発病し、別名「スイカの疫病」ともいわれます(写真②)。



写真② 炭そ病 (葉の症状)

①。感染した葉はお湯をかけたように溶けるのが特徴です。炭そ病は感染後、じわじわと症状が現れ、発病すると葉に黒色斑点上の病斑を形成し、果実には、ひし形の病斑がみられるのが特徴です(写真②③)。

② 耕種防除

どちらの病原菌も土壌または収穫残渣に存在するので、薬剤防除のほかに、敷きワラなどで降雨時の泥はねを抑えると、感染のリスクが下がります。また、圃場内に水を溜め込まないよう、排水対策も重要です。明渠を掘り、水の流れを圃場外へ誘導するように努めましょう。



写真③ 炭そ病 (果実の症状 [左は初期症状])

③ 収穫時の注意

降雨時の収穫作業は、後日、腐敗するリスクを高めます。できる限り、天候の良い日に行いましょう。

アブラムシ・アザミウマ類対策

近年、ハダニ・アブラムシ類に加え、アザミウマ類の発生が増加傾向にあり、特に高温乾燥下で発生度が高まります。スイカに多く寄生している場合は、次作に影響を及ぼしますので、注意しましょう。

アブラムシ・アザミウマ類には、ウラムDFやモスピラン顆粒水溶剤の使用が効果的です。ハダニ類は世代交代が早く、薬剤抵抗性が高まりやすいので、系統の異なる薬剤をローテーション散布しましょう。

また、スイカを作付けしている圃場の周辺に、雑草が繁茂していませんか。害虫は雑草をエサ場として、繁殖します。圃場周辺を見回り、バスタ液剤やナブ乳剤を散布して雑草を枯らしましょう。

テクニカルダイアリー



畑の準備と播種

落花生は連作障害が出やすい作物なので、他の作物と輪作してください。元肥には落花生専用(5-15-20)を10アール当たり60キ、苦土石灰を10アール当たり60キ施用します。準備ができたら、ベッドを作って2条用マルチ(孔径8センチ)を敷き、畝間130センチ、株間30センチで1〜2粒ずつ播種します。鳥害対策として、播種前にキヒゲンR-2フロアブルで種子消毒を行いましょう。

病害虫対策

表②を参考に、薬剤防除を行ってください。白絹病や茎腐病の被害株は早めに抜き取りましょう。

マルチ除去

収量・品質が低下しないよう、開花期(圃場の50%の株に1輪でも花が咲き始める頃)の7〜10日後にマルチを除去し、雨水や灌水した水を浸透させましょう。

中耕

開花初期から1〜2回、中

栽培のポイント(表①参照)

耕を行います。子房柄が地中に侵入しやすくなり、収量を上げる効果があります。除草を兼ねて7月下旬までに行いましょう。

灌水

7月下旬〜8月中旬(結莢〜莢肥大期)に干ばつ害を受けると、子実の肥大が停止して空莢が発生し、収量が大きく低下します。畑が乾いているときは、1回当たり30〜40リ灌水してください。

試し掘り

収穫が遅れると、落ち莢が多くなったり、食味が低下したりするので、必ず試し掘りをして、収穫適期を逃さないようにしましょう。

乾燥

掘り取り後は5〜7日間地干しします。その後、風通しの良い場所です野積みし、ブルーシートや稲わらなどで覆います。十分に乾燥させた後、脱莢・調整してください。

石灰の施用

石灰が不足していると、空莢

表① 落花生の栽培暦

	5月			6月			7月			8月			9月			10月			収穫適期目安
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
干葉半立	○	○	○	★	★	★													開花期後95日
ナカテユタカ	○	○	○	★	★	★													開花期後80日
Qなっつ	○	○	○	★	★	★													開花期後80日

○…播種 ★…開花期 □…収穫

表② 落花生に登録のある薬剤

薬剤名	対象病害虫	使用時期	希釈倍率・使用量	使用回数
フォース粒剤	コガネムシ類幼虫	播種時	9kg/10アール	1回以内
トクチオン細粒剤F	ヒョウタンゾウムシ類	収穫60日前まで	9kg/10アール	2回以内
トップジンM水和剤	褐斑病、茎腐病	収穫7日前まで	1500倍	4回以内
フロンサイド粉剤	白絹病	収穫45日前まで	20kg/10アール	1回以内

2月の分析経過について		合計3点
残留農薬分析点数	多成分一斉分析	春キュウリ……1点
		ハウレンソウ……1点
		レタス……1点 (ちばエコ)
※残留農薬分析において、基準値を上回る成分は検出されませんでした。		土壌診断点数……合計43点

「営農情報メール」配信中!

作柄情報、病害虫対策、青果物概況、イベント案内など、営農に役立つ最新情報をお届けします。

↓登録はこちらから(登録無料)



JA山武郡市の組合員ならどなたでも登録できます。

や未熟莢が増加します。元肥で施さなかった場合は、マルチ除去後の中耕時に施用しましょう。(参考)2019年産の調査結果  
土づくり資材の無施用区の充実度(実の入った莢の割合)は78.9%でした。これに比べて畑

のカルシウム施用区(10アール当たり100キ)の充実度は93.7%でした。他の石灰入り資材施用区の充実度についても94%前後となり、石灰の有無により収量・品質に大きな差が出る結果となりました。